考えさせられた松永さんの連帯

ラベルまで工夫して

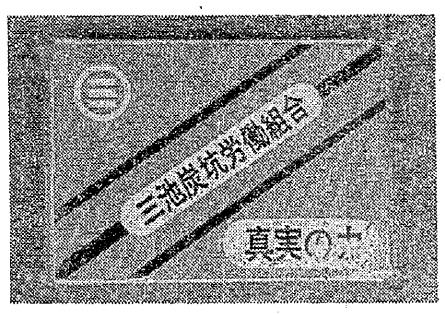
ティッシュ・ペーパーの贈り物

働く者の連帯を口にするのはやさしいが、それはいったいどんなことか。そのことについて、事実をもって考えさせてくださった人がここにある。

届いた、思わぬ贈りもの

予期しないことに、このほど静岡の松永綾子さんという人から、「宮浦支部、組合員御一同様」へとして、ポケット・ティッシュ・ペーパーが三梱包も送られてきた。ビニール袋入り千五百包にもの贈りもので、各袋には「三池炭鉱労働組合」「真実の力」の文字が刻まれた、真紅のラベルが光彩を放っていた。

松永綾子さんといえば、かつての三池炭鉱を退職なさったものの、今も三池を忘れず、静岡で壮健に過ごされていることがわかった。



松永さんはこのラベルまでつくってくださった。

学さんは、三池新労組から勇気をもって、三池労組に復帰（昭和四十二年ごろ?）なさった方で、その後三池炭鉱を退職なさったものの、今も三池を忘れず、静岡で壮健に過ごされていることがわかった。

真心のこもるお手紙

謹啓

早いもので、皆様方の暖い保護の下を離れ、静岡に来て早や八年を経過してしまいました。この土地の気候・風土には慣れては来ましたが、何時も思い出されるのは大牟田でございます。苦楽の問題ではなく、心底より炭坑マンとして一心同体となって過ごした御地の人情味が、望郷の念をかきたてるのです。

然し現実は現実。皆様のよい教えを受けた炭坑魂で一日一日を大切に、懸命に働いて居ります。

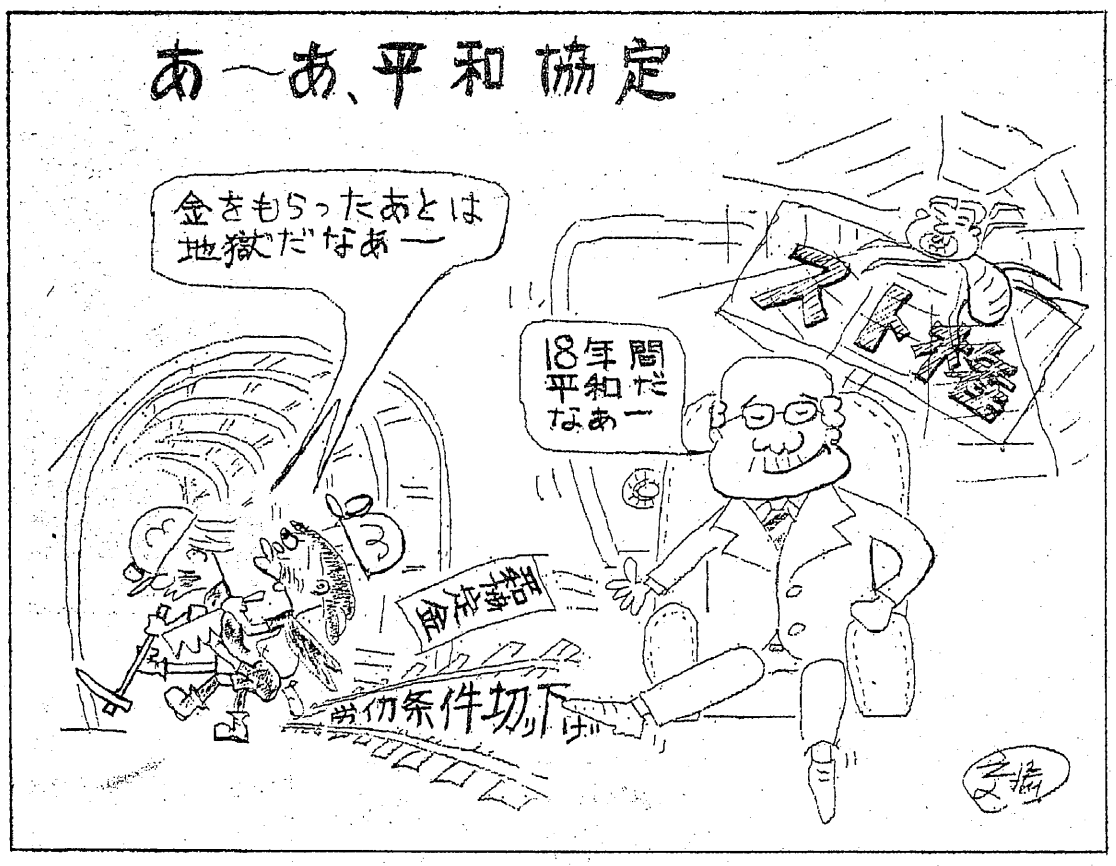
私は今、ポケット・ティッシュ・ペーパー工場で、同僚の女子作業員のマネージャーのようなことをやって居ります。仕事以外に能のない私ですが、ファイトでは絶対他人に負けないつもりで頑張って居ります。

別便でお送り致しましたポケット・ティッシュ・ペーパーは、私が今働いている会社の製品です。私なりに考えました図案のラベルです。皆様方の組合活動の一灯にでも、と祈念して送らせていただきました。何かのお役に立てば幸いです。静岡の地より、主人共々ますますご健闘をお祈り致しております。

ご厚意に感謝

松永さんご夫婦の、三池労組に寄せられた、いつまでも変らない連帯には感謝の言葉もなく、どうかいつまでもご壮健でお過ごしのことを、ひたすらお祈りしてペンをおく。

なお、松永綾子さんご夫婦の現住所は――「静岡県富士市伝法上田端、一六六三の五」。



三川指導部電気分会の新聞〝交流〟から。

平和協定を再び延長

三池新労　問題を今後に残して

このほど、三池新労組（高木治男組合長）は問題の〝平和協定〟を、再び今後二カ年間延長することをきめ、今後さらに、一つの大きな問題を全炭鉱労働者の手に残した。

伝えてくれた一人の三池新労組員によれば、その廃棄さえ叫ばれてきた平和協定（ストライキ権を、幾らかの金とひきかえに放棄するために、新労組が昭和三十六年以来会社との間に結んできている）を、三池新労組は再び今後二年間延長することをきめた。

新年度の行動方針、賃金展開についての要求案とともに、平和協定の取り扱い方をきめるための、三池新労組の中央委員会は、九月十九日に開かれた。前記の新労組合員によれば、どうやら一時間もかからずに右の三つの問題の審議は片づいてしまったという。

こうして三池新労の性格（明らかに会社の御用組合）は、今年もまた変わるまでにいたらず、今後もこれまでとまったく同じように全国の炭鉱労働者の闘いの足を、その内側からひっぱり続けることになるだろうし、一つの大きな問題を残すことになった。

豊かな老後つくろう

第九回全国高齢者大集会に参加して

三池退職者の会　大西勉

今年で九年目を迎えた九・一五全国高齢者大集会に、三池炭鉱退職者の会の代表として、大久保陽三さんと私が参加しました。（福岡・熊本両県代表の形で）

まず各来賓の挨拶が行なわれましたが、そのなかで特に社会党代表の阿具根登副委員長が、一般席を指差しながら、「私も皆様と一緒に、代表者の席にこそ座るべき立場にある身だ」と前置きされ、次のように力強く訴えられました。

「政府・自民党の反動的な福祉見直し論や、財政難解消のための無責任な増税対策に反対し、八十年代における高齢化社会の中で、安心して暮らせる老後生活を確立するため頑張ろう」（要旨）

ひき続いて、槙枝実行委員会代表（総評議長）の基調報告が行なわれました。

「第一回大集会（一九七一年九月十五日）から今日まで、不十分ながら制度改善、厚生年金などスライド制の導入、福祉・国民年金ひきあげ、国としての老人医療の無料化、交通機関の無料化など、高齢者・年金受給者の生活改善に一定の成果をあげてきた。

しかし、八〇年代の高齢化社会を前に、政府・自民党、大資本の福祉見直し論（後退、切り棄て）が、広がっている。

これに対して、すべての国民が心からよろこび合える高齢化社会を、運動によって切り開くよりほかに道はなく、①福祉後退の阻止、②雇用保障・年金支給年齢延長反対、③福祉年金・遺族年金の大幅引き上げ、婦人年金の確立――の三本の柱を目標に、運動を強めなければならない」

体験発表が続いた後、最後に「おじいさん、おばあさん……豊かな老後をつくるために、新しい革新日本を生みだすために、いまこそ……」で終る大会アピールを、万雷の拍手で採択して大集会は終りました。

ただ、今日の緊迫した情勢のなかで行なわれた大集会だったのに、ごく一方的な報告や挨拶だけに終り、質問や討論の機会が与えられないなど、もりあがりに不足した点がありましたが、今後は必ず企画や運営などによって改善されるよう、実行委員会に強く要望しておきます。

なお、鈴木・新東京都知事はこれまでの例を破り、挨拶にきませんでした。

なかま

本所指導部　武松輝男さん

▼…「安保と三池」といえば三池闘争だが、そのとき本所支部（今の指導部）の青年行動隊長として、資本と権力の前に立ちはだかって闘った。今、三池労組でがんばっているあのときの行動隊長といえば、彼一人ということは、同じ三池闘争のとき、文化工作隊長として、あのホッパー前で、西日本のうたごえの演出に当たったこととともに、あまり知られていまいが……。

そんな文化活動上の能力の一面を買われてか、彼はまた井形バレー団の公演で、〝赤いゆり椅子〟というモダンバレーに出演したこともある。モダンバレーに出演したほどだから、「じゃ、踊りの方は?」と聞くと、かえってきたのは苦笑だった。

文字通り多趣味で多才。なかでも彼の本領を発揮したものこそ、ほかならず反公害活動。「彼がいるかぎり、資料は出せない」、と企業も警戒するというが、この方ではすでに朝日年鑑が「反公害の住民運動家」として紹介している。

ことしの一月、三井独占資本の支配の模様を地図と文章でまとめたレポート〝三池炭鉱の発展・支配と鉱害〟を発刊。この分野では初めてのものだとの評判。こんどの健闘に期待する。

（本所・杉野栄治記）

×

この欄へ「この仲間を……」と思う人を紹介してください。

本所建設事業部工作員。49歳。勤続32年。妻幸子さんとの間に1男1女。義母を加え、大牟牟田市本町5丁目9の自宅に5人暮らし。